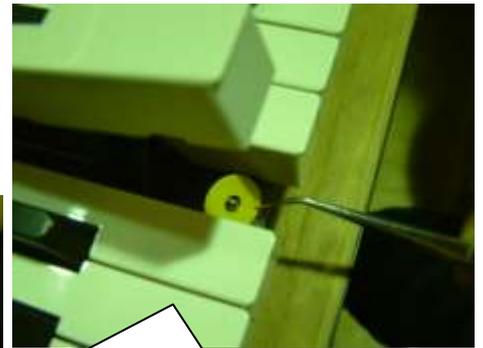


中部楽器技術専門学校 ピアノ調律科2年生 リビルド合宿 レポート 2011年 10月3~7日 速報

最近では中古ピアノが多く市場に出回っています。それらを修理・再生させる技術が不可欠となり、調律師の仕事としてニーズが高まっています。本校のピアノ調律科では、三重県湯の山にある研修センターで合宿を行ない、**中古ピアノの再生(リビルド)技術**に磨きをかけています。この合宿は春と秋の2回にかけて実施しています。今回の合宿では、整調(鍵盤の弾き心地を整える作業)を中心に行ない、最後にリビルドし終えたピアノの品評会を行ないました。



鍵盤の高さと水平を揃え、スムーズな動きにして、弾きやすいタッチを作っています。



白鍵の下にバランスペーパーパンチングを入れて、高さを調整しています。

定規を使い黒鍵の傾きを確認しています。



正常な動きと演奏性を高めるために、鍵盤の沈む深さを調整しています。

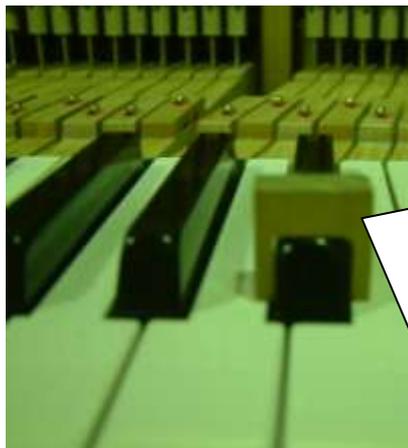


この調整には、あがき定規を使います。

～学生のコメント～

「打鍵の強さやスピードで深さが変わってしまうので、一定の力で押さえることが難しいです。」

学生のオリジナル工具です。木を削って作りました。黒鍵と白鍵の間の高さを確認するときに使います。試行錯誤しながら自分にあつた工具を作って利用している学生もいます。ちなみにこの工具の名前は、「黒鍵あがき定規」とのことです。





ハンマーの上部に定規をあてて、ハンマーの高さが同じかどうか確認しています。
ハンマーが正しく弦を打ち、発音にばらつきが無いようにするためにもハンマー調整は大切です。



シャンクプライヤーという工具を使いねじれや高さを調整していきます。

～学生のコメント～

「シャンクプライヤーで加熱してねじれを調整するので、加熱しすぎて焦がさないように加減するのが難しいです。」



脚柱を取り付けるために、ピアノ修理台を使ってピアノを横にします。

脚柱を取り付けています。



外装磨きを行ないました。

～学生のコメント～

「磨きすぎて下地を出さないように注意しています。力任せで磨かないように考えています。」

